

総務経済常任委員会 行政調査報告

東日本大震災被災地を訪問 あすへの教訓を求めて

○調査地

宮城県「南三陸町」

○調査項目

防災対策・復興施策

○調査地の概要

宮城県北東沿岸部に位置し、基幹産業はリアス式海岸地形を利用した漁業、観光業。

○被災状況

昨年三月十一日、マグニチュード九・〇、震度六弱の地震にともない発生した大津波により、流失家屋三二九九戸、死者五六六人、行方不明三〇〇人という壊滅的被害を受けた。

・防災拠点も被災

本来、災害時の救援拠点となるはずの「公立志津川病院」は津波により、入院患者一〇七名の内、

七十名以上が犠牲に。また、災害時の対策拠点となるはずの「町防災庁舎」は、三階建て庁舎屋上より二メートルも高い想定外の津波により、詰めていた町幹部・職員四十名の内、最後まで町民に防災無線で避難を呼びかけた女性職員を含め三十名が犠牲となった。

心となり、行政支援の下、いち早く三十三店舗からなるプレハブ商店街を建設して営業を再開。被災住民の生活再建、観光客受け入れによる地域経済再建に大いに貢献している。

・町内で発生した四十五万トンにのぼる震災がれきの処理について、地元



大津波で大きな被害のでた防災庁舎

○復興への槌音

・大津波により壊滅した地元商店街の事業者が中

画された対策は、想定外の大津波（高さ十五メートル）の前にはまっ

に処理施設を建設し、数年かけて自前処理することを決定。

これにより複数年にわたる二百人の地元雇用を生む。今回、過去三度の大津波の経験をもとに計



大津波に粉碎された5mの防潮堤

たく機能せず。自然との共生に方針を転換し、従来の市街地には公園・工場・倉庫・市場を誘致し非居住区とし、新たに町内の高台に分散して居住区を再建することを決定。

○調査のまとめ

① 想定外の災害により、最も安全であるはずの防災拠点（病院・庁舎等）が壊滅的被害にあった点を踏まえ、わが町でも想

定される多様な災害に対し、今一度これら重要拠点の安全性を検証することが求められる。

② 近年、災害は激甚化傾向にある。過去の経験則に過度に依存することなく、自然との共生に主眼を置き、わが町の風土、地形等の特徴を念頭においた防災計画・避難計画の策定が必要である。